

# ORPANOZ

東北学院大学 広報誌

ウーラノス

特集 NEW WAVE T.G.U.

## 『大学設置50周年』

### ■ 学長インタビュー

『新しい世紀を生きる視野と責任

- 東北学院大学の真実 - 』.....

### ■ 大学設置50周年記念事業紹介.....

「ウーラノス」は、「天」を意味するギリシャ語です。イエス・キリストは12人の弟子たちに「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい(マタイ10:7)と命じています。この箇所にもοὐρανόςが用いられています。



多賀城キャンパス

## CONTENTS

- 学生たちは今.....
- 変わる東北学院大学.....
- 寄贈「オルガンを弾く婦人」.....
- 入試制度の評価.....
- 学長室より.....
- 大学院より.....
- 学部より.....
- キリスト教大学の使命.....
- 国際交流センターより.....
- 図書館・研究所より.....
- 就職部・入試センターより.....



21世紀通信

Vol.3  
FEBRUARY, 2000

大学広報誌『ウーラノス』は、東北学院大学設置50周年を記念して年3回発行されます。本誌は、1999年度最後の号です。2000年度には、土樋キャンパスに建設中の教育・管理棟が完成します。また、新棟を会場にして国際シンポジウムを行うなど、設置50周年を記念する第2年目の行事が計画されています。ウーラノスも継続して発行する予定です。

## 東北学院大学設置50周年

特集 学長インタビュー



# 新しい世紀を生きる視野と責任

—東北学院大学の真実—

文学部英文学科3年生の中島園子さんと法学部法律学科3年生の安藤正浩さんが倉松功学長に直撃インタビューを行いました。東北学院大学に関し、学長はどのようなお考えを持っておられるのかをお伺いするためです。

安藤 倉松先生は、本学の特色がどのようなものであると考えておられますか。

倉松 一つは、本学の長い歴史の中で大切にしてきたキリスト教精神による教育です。卒業生の方々に会いすると、皆さんから、隣人愛や奉仕、地の塩といった言葉が聞かれます。本学での礼拝やキリスト教学を通して、キリスト教精神を学んだということです。

安藤 倉松先生のおっしゃることを、私たちは1年と3年時に履修する必修科目のキリスト教学などで、学んでいるのですね。



インタビューー  
安藤 正浩法学部法律学科3年

倉松 もう一つは、本学が、広く教養を大切にしている、つまり自由な教養教育を大切にしている大学だということです。専門を勉強

してその分野の職業に就く方もたくさんいますが、専門と直接関係のない職業に就き、大学で学んだ幅広い知識を生かす方も大勢おります。先日の週刊誌で、本学の就職率が全国の4年制大学で20番以内であると紹介されました。これは、本学が現代社会のニーズに応えていると評価されたからです。

安藤 倉松先生は、本学の学生と接しながら、学生に対してどのような印象をお持ちですか。

倉松 挨拶をする学生が多いですね。私も声をかけますが、大学として非常に雰囲気がいと思います。学生が学長を囲んで懇談するなどの会を開催し、さらに交流を深めたいと思います。是非、安藤君の所属してるスポーツ新聞部で取り上げてほしいですね。

中島 倉松先生は、本学の学生をどのような方向に導きたいとお考えですか。また、どのような人間性を持ってほしいとお考えですか。

倉松 本学がキリスト教大学であるということは先程述べましたね。さらに、キリスト教の精神を教える科目だけでなく、それぞれの学

部学科で特徴のある科目が提供されています。皆さんがそれらの中で必要とされている価値を見だし、最良であると思うものを選んでいくことが大切です。本学を卒業して良かったと思えれば、最上の喜びではないでしょうか。



インタビューー  
中島 園子文学部英文学科3年

中島 大学に入る前は、キリスト教のことをあまり知りませんでした。東北学院大学でいろいろな機会に触れることができ、見方がかわりました。

倉松 皆さんは卒業してから、本学で学んだことを基礎にしていくこととなります。基礎の中で一番大切なのは価値観だと思います。本学の提供しようとしているキリスト教の価値観が皆さんに届くことを、私は願っています。また、



## 創立記念日

5月15日は東北学院の創立記念日です。この日を記念し、ラーハウザー記念東北学院礼拝堂（土樋キャンパス礼拝堂）で創立記念式典を行い、その後、仙台市青葉区にある仙台北山キリスト教墓地で校祖墓前礼拝が行われます。本年も5月15日に、創立114周年を記念し、式典が行われます。



## 中国・南開大学への旅 —創立80周年記念式典出席— 教養学部助教授 塚本 信也

1999年10月17日、世界中の協定校からのゲストを乗せたバスは、パトカーの先導で南開大学へ向かいました。名門の創立80周年記念式典は、特別な位置づけでした。屋外に設けられた会場は、文字通り立錫の余地もありません。メインステージに着席していた倉松学長によれば、参加者は優に1万人を越えていたのではとのこと。杖に身を預けた卒業生の校歌が、今も耳に残ります。



本学の先生たちの研究がしっかりと行われ、その研究に基づく講義が学生諸君に届くことも重要です。安藤 そうですね。

倉松 中島さんは、大学に進学して感じた一番の違いは何でしたか。中島 高校のときにイメージしていた大学は、先生が大教室で大きい黒板に書いたものを学生が一生涯懸命書き写すというものでした。しかし、実際は、先生がきちんと説明し、わからないときは学生が質問できるものでした。

倉松 安藤君はどうですか。

安藤 先生と学生の距離が少し遠くなったことと、自由な時間が増えたという感じを持ちました。自分自身が責任を持って自主的に発言し実行してゆく必要があると思

いました。

倉松 今の日本は、集団主義、画一主義の傾向があります。周囲の人々と仲良くすると同時に、自分自身の考えをしっかりと持たなければなりません。本学の自由な雰囲気は、その意味でも重要です。お二人は、東北学院大学を良くするためにはどのようにしたらいいと思いますか。中島 私は、東北学院大学設置50周年記念事業の一つのUI活動に参加しています。その中でも話し合われたことですが、大学の中で、学生相互の、また先生と学生相互の交流の機会がもっとあっていいのではないかと思います。そうすることで、大学が温かい雰囲気を持つことができ、学生も良い方向へ向いてゆくと思います。

倉松 そうですね。そういう意味で、双方向型の講義や、少人数によるゼミナールはとても大事ですね。

中島・安藤 このインタビューで、私たちの東北学院大学に対する考えを整理することができました。短い時間でしたが、ありがとうございました。





## 東北学院大学設置50周年記念事業紹介

UI (University Identity) 活動

# 社会人・高校生・本学学生ワークショップ



これまでに多くの皆様のご協力をいただき、大学設置50周年記念のUI活動に関するワークショップ(WS)を実施してまいりました。社会人WSには、本学同窓生のほか、この試みに興味を示して下さった各界でご活躍の方々にお集まりいただき、少人数のグループに分かれての検討をお願いしました。最終回では、それらの結果についての報告会を実施し、本学役職者がその内容を傍聴させていただきました。「社会や地域に必要とされ、21世紀に向けて幅広い人材の育成を図っていくこと」や「キリスト教に基づく建学の精神の今日的な具現化」などの大きなテーマから、「図書館の地域住民への開放」、「生

涯学習の充実」、「大学からの情報発達の強化」など具体的な事項に関する提言がなされ、熱のこもった報告会となりました。各グループごとの分析は、毎回のWSのみならず、自主的な話し合いの場を設けて分析・検討を重ねるなど、献身的な活動がなされ、提言内容も見事な構想で展開されました。

高校生を対象としたWSは2回実施いたしました。1回目は大学祭を見学し学生生活の一部を見て、高校生活との違いを実感することをテーマとし、2回目は、学長室や教員研究室の訪問をテーマに、倉松学長や数名の先生から、大学での教育・研究の内容や授業の形態について説明を受け、大学で学ぶ意義について理解を深めました。グループ活動の後に感想を述べていただきましたが、自由度の高い大学生活に憧れをいだきながらも、自立した行動が求められることに、期待と不安が交差する様子が伺えました。

本学学生によるWSは3回実施しました。毎回、「大学での勉学を考える」、「快適なキャンパスラ

イフを考える」、「大学卒業後を考える」というテーマを設けてディスカッションをしましたが、限られた時間の中で、東北学院大学をいかに良い大学にすべきか、という観点から、教育内容に対する要望や学生生活の支援に関して活発な意見交換ができました。



これらのWSの結果を報告書として作成し、全教職員が自らの課題として受け止め、大学の質的な向上に役立てることができるようになりたいと思っております。延べ250名の方々にご参加いただきましたUI活動でしたが、皆様のご協力に感謝するとともに、これからもご支援を賜り、多くの方々に役立つ大学としてありたいと考えております。



### COLUMN WELL

## 古代文献から歴史を観る

- 私の最近の研究から -

文学部長 土戸

東西文化の陸橋パレスティナに、一世紀にキリスト教会が誕生し、二世紀にかけて急速に地中海世界に広まりました。その時代の古文書思想の分析を通してその歴史的發展を再構築する研究をすすめてきました。その一つであるヨシネ福音書文学とヨハネの三通の手紙の著者の

神学・思想を文献学的・歴史批判的研究を原資料に適用して解明した私の註解書が2000年に出版される予定です。大学院の「初期キリスト教研究」のテーマと密接に関わっています。同時に、現代の「アンティ・セミティズム」問題に古代思想研究の観点から解決の鍵を示したいと思ひます。



**佐藤 文博さん**

大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程3年  
山形県山形中央高等学校、  
東北学院大学工学部電気工学科卒業

佐藤さんが大学院進学を意識したのはいつ頃ですか。

学部時代にエコノパワー研究会というサークルに入り、自動車の小燃費に関することやソーラーカーの研究を行いました。当時、現在の指導教員でもある工学部教授の菊地新喜先生と出会い、3年生の時に大学院進学を考えました。

四国で行われたソーラーカーの全国大会に出場し2位になったそうですね。ソーラーカーを研究しているのですか。

ソーラーカーの心臓部である制御に関する設計をしています。現在の研究内容は磁気応用です。具体的には、電力を非接触で電送する研究で、体内の人工心臓に体の外から電力を送るといったシステムがありますが、われわれ一般の生活に応用出来ないかと考え、研究を始めました。

学会での発表はどのくらいされていますか。また、レフリー制の学術論文はどのくらい書かれていますか。

学会発表は、国内50件と国外10件です。また論文は、共著も含めて10本位で、今後1、2本提出する

予定です。あわせて現在、博士論文も作成しています。

大学院の教育研究は、研究者の道を歩むものと、高度専門職業人の道を歩むものに大別できますが、どの道を進もうと考えていますか。

現在の研究を福祉の分野へ応用することを考えています。具体的に言えば、電力の非接触電送を電動車椅子に応用することによって、体の不自由な人が豊かに生活を送ることができるというもので、研究職と技術職を備えた方向を目指しています。工学は、独創性が必要といわれますが、それは一人のための独創ではなく、社会の中で役立つ独創であるということを常に念頭に置いています。

## Interview 学生たちは、今。 Interview

高野さんは、本学体育会のライフル射撃部で活躍しています。ライフル射撃とはどのようなスポーツで、どのような活動をしていますか。

重さが4kg程度の空気銃を使用し、一発ごとに空気を入れて的をねらうスポーツです。ライフルを長時間構える際の集中力、腕力、脚力、腕や腰の安定感を持続するための腹筋力を必要とするため、基礎トレーニングは欠かせません。現在は、部員全員が相互にライバル心を持ち、全国で通用するように、精神面の強化を図っています。

高校時代からライフル射撃をされていたのですか。

はい。自分の通っていた高校は、全国でも有名で、在校中にインターハイにも出場しました。高校3年

間でライフル射撃をやめたくないという思いがあり、高校の先輩が多数在学している東北学院大学に入学しました。昨年、全日本女子学生ライフル射撃選手権大会エアライフル立射40発競技で、個人優勝及び女子団体優勝をしました。その時の団体メンバーは高校からの仲間でもありました。

部活動と学業の両立はどのようにですか。

スポーツ推薦で入学しましたが、学業を優先しています。ただ、大会が続くと、約1ヶ月も講義に出席できないこともあり大変な面もあります。

ライフル射撃部での経験をこれからどのように生かしていきたいのですか。



**高野 千穂さん**

法学部法律学科1年 体育会ライフル射撃部所属  
山形県山形城北高等学校卒業

ライフル射撃を卒業後も続けたいので、将来は警察官が女子自衛官になりたいと考えています。日本だけではなく、常に世界を狙い、オリンピック出場を目標としています。

## 変わる東北学院大学

# 土樋キャンパス新教育・管理棟および体育館(仮称)

東北学院大学設置50周年をむかえた昨年、学都仙台の中心部に位置する土樋キャンパスの環境整備の一環として、教育・管理棟および体育館を新築することになり、本年9月の完成に向け、現在その工事が進んでいます。

土樋キャンパスは、本学の本部的役割を備え、学都仙台を象徴するキャンパスとして発展してきました。しかし、その発展に従って行ってきました建物建設により、事務室が散在してしまい、学生や外来者の方々に不便をかけてきました。そのため、教育・研究や学生サービスの質的向上だけでなく、施設の整備・充実も急務になっておりました。

教育管理棟は地上5階建一部6階建で、主要室は、1階が情報処理室4室、事務室、2階が学生課や大学院事務室、国際交流センターなどの教学関係事務室、保健室、3階がカウンセリングセンター、会議室3室、4階が中教室2室、5階が同時通訳ブース4室を備え国際会議の開催が可能です。また、体育館は、地上3階建で、1階はアリーナ、更衣室、2階はトレーニングルーム、3階は多目的ホールとなっています。

完成後新教育・管理棟および体育館のお披露目もかねて、平成12年10月7日に大会議室を会場に国際シンポジウムの開催を予定しております。詳細につきましては、平成12年6月20日発行の広報誌第4号でお知らせいたします。



## 寄贈油彩画紹介 『オルガンを弾く婦人』

東北学院大学の礼拝堂正面に大きなステンドグラスが収められています。一つは、使徒たちに祝福を与えまさに天に昇ろうとしている復活のイエスを描くラーハウザー記念東北学院礼拝堂(土樋キャンパス礼拝堂)のステンドグラス、もう一つは、十字架を担うイエスの姿を描く田中忠雄氏の大作、泉キャンパス礼拝堂正面のステンドグラスです。これらの二つの作品は、東北学院のシンボリック的存在になっています。昨年、これらの二つのステンドグラスを融合したような作品が東北学院に寄贈されました。田中忠雄氏の油彩画「オルガンを弾く婦人(写真)」です。



ステンドグラスを背景に、一人の婦人がオルガンを弾いています。この婦人のモデルは、田中忠雄氏の父・兎毛氏が初代牧師であった札幌市の北光教会のオルガニストの方だと解説されています。田中氏は、美しさに感心した東北学院礼拝堂のステンドグラスを背景にしてこの作品を制作しました。それ故、正面とオルガンの位置が実際の配置と異なっています。

原画は、写真版よりはるかに明るく清楚な印象を与えます。土樋キャンパスの新教育・管理棟の献堂式において展示し、皆さんにご覧いただきたいと計画しています。



# 入試制度の評価

## 推薦入試、AO入試をふり返って

平成12年度入学者のための各種推薦入試、社会人特別入試(A日程)、AO入試(第1期、第2期)が、昨年12月までに終了しました。結果は以下のとおりです。

### 学業推薦

学業推薦は、今年から、各高校が推薦できる学科・専攻及び人数を本学が指定し、その代わりに、推薦された方は不合格にしないという方式にしました。その結果、全学で推薦依頼人数632名に対し、422名の出願者があり、出願率は66.8%でした。宮城県外の高校での出願率の低さが目立ちましたが、受験者全員が合格しました。

### スポーツ推薦

昨年より12名少ない151名の出願がありました。宮城、福島、岩手といった近い地域からの出願は増加しましたが、青森、秋田、山形や北関東からは減少しました。選考の結果、112名が合格しました。



### 社会人特別入試

英文、経済、商の3学科の夜間主コースで学ぶ社会人のための特別入試です。出願者は3学科あわせて39名で、昨年より26名の減少となりました。引き続く不況、夜間主コースの授業料がいままでより二部より高くなること(本学としても勤労学生のための新たな給付奨学金制度を準備しました)が原因と考えられます。結果は、受験者全員が合格しました。3月にもう一度試験(B日程)があります。



### キリスト者推薦

昨年からはプロテスタントだけではなく、カトリックの高校からも出願できる(キリスト教学科は除く)ようになり、志願者が増加しましたが、今年の志願者は14名と昨年より8名減少しました。北海道や長崎など遠隔地からの志願者が増加しました。13名が合格しました。

### 資格取得推薦(商学科)

本学が指定した商業高校から、簿記の一定の資格を持った24名(昨年と同数)の出願があり、全員が合格しました。

### AO入試

今年度より導入した選抜方法です。第1期では882名、第2期では86名の出願がありました。出願者数は、予想を大きく上回りました。現役高校生のほかに、浪人生も50名ほどが出願しました。社会人、大検生や外国の高校からの出願もありました。

その中から、第一次選抜(書類審査と面接)と第二次選抜(小論文と面接)によって350名(第1期314名、第2期36名)が合格しました。

現在、夜間主コースのための第2期の申請を受付しています。



# 仙台圏大学の中の東北学院大学

学長 倉松 功

Think globally, act locally! というよく知られた言葉があります。「グローバルに考え、そのおかれた各場所で実践せよ」ということです。これは学問の普遍性を問う大学人として、ある意味では当然のことです。一方、本学が「多様な大学院を有し、実用専門性にも留意した総合的教養大学」として今後発展すれば、産学官の総合職や専門職への人材の提供という地域への幅広い貢献が可能です。仙台圏大学の中では、それだけで大きな特色を持っているように思います。1万数千人の学生を擁する総合大学、しかも、教養学部と人文系学部、それに比較的専門性の高い社会科学系と自然科学系学部を有する大学は、東北大学を除いた場合、仙台圏には本学しかありません。東北大学がますます大学院大学に集約されていくように、東北の各大学も、教養か研究か実用専門かのいずれかに収斂していくことになるでしょう。そうなれば、前述のような意味における総

合大学としての本学のあり方は、建学以来の歴史的使命と地域に対し担っている役割という点で、より特色あるものとなります。

これからも仙台市の人口は増えるでしょう。その人口の増える中身というのは、個人としての自分のあり方や生き方を選択する高学歴・高齢化の成熟した、そして、個人主義化した市民です。そういう高学歴・高齢化の市民は、カルチャーセンターでは満たされない高等教育への意欲を高めております。実用専門性を持った教養大学としての本学の特色がそのような生涯教育の面でも発揮されるのではないのでしょうか。

各大学が持っている制約と特色を相互に補完することが求められます。その一つが、現在検討している在仙の各大学間の単位互換制度です。この制度は、学都仙台に貢献するとともに、在仙の学生全体に、学習意欲を喚起することになります。教員サイドには、これまで以上に他大学との自由な協力



と競争が求められることとなります。また単位互換が、市民の生涯教育を広めるネットワークの中に位置付けられるならば、成熟した市民社会の形成と密接な関係を持つことになるでしょう。

地域への役割と貢献は多々ありますが、本学の特別な貢献は、キリスト教の持っている価値の中にあります。キリスト教的諸価値を大学人に理解できる言葉で、普遍的価値としてしっかりと伝えることがキリスト教大学の使命です。少なくとも、個人の価値の平等、自由な自立した個人、隣人愛ということについては、他の宗教も基礎付けられるでしょうが、キリスト教では特別な使命となっています。それを伝えていくのが、本学の建学以来の責任です。

## 二部から昼夜開講制へ

この3月で、半世紀の歴史を持つ本学の二部(夜間学部)は学生の募集を停止します。その後3年経過すれば二部は廃止になります。それは、本学が勤労学生への教育的使命を放棄したことはありません。むしろ、社会人に対する本

学の使命の新しい展開です。今日、本学は勤労学生と同様、高学歴・高齢化の社会に生きる人々に進んで対応しなければなりません。そこに昼夜開講制の積極的な意味があるのです。



# 大学院より

## Graduate School Info.

### 文学研究科

#### 大学院の充実は、教員と院生のめざましい学会活動から

本研究科にヨーロッパ文化史専攻とアジア文化史専攻の修士課程が増設され、昨年4月には、博士課程後期課程が順調に増設されました。博士論文を審査する有資格者の層の厚さが高く評価された結果です。他方、院生も倍増し、55名を擁し、本学大学院5研究科の25%を占めています。

院生の研究意欲は高く、英語英文学専攻の博士課程の斉藤義寛さんと中山悟視さんは、東北英文学会で、前期課程の吉田国保さんと我妻智宏さんは、英文学専攻課程協議会の院生の発表会で12の大学院の相互研究の場で研究発表をしました。ヨーロッパ文化史専攻の博士課程在籍の伊藤宏二さんと須田明博さんは、東北史学会・西洋史部門で、鶴丹谷三千代さんは、キリスト教会東北支部大会で研究発表を行い、3名全員が学会にデビューしました。同様に、アジア文化史専攻では、博士課程の長澤政之さんが、東北近世史研究会で、前期課程の照井貴史さんが、東北学院大学中世史研究会で発表するなど学

的活気を呈しています。

### 法学研究科

#### 社会人特別選考の実施

本研究科では、高度化・多様化した社会における生涯学習の要請に応える趣旨で、平成10年度入学試験から社会人特別選考をはじめました。これは、大学を卒業し、企業や官公庁などに勤務している方、主婦の方などを対象としており、もう一度大学で勉強をしたいという意欲のある方に、大学院(博士課程前期2年)の門戸を広く開放するために設けられたものです。出願にあたって研究計画書の提出が必要ですが、入学試験は、この研究計画書にもとづく口述試験のみです。試験時期もこれまでは春季だけでしたが、平成12年度入学試験からは、秋季、春季の2回になりました。平成10年度は3名、平成11年度は2名がこの制度により合格しています。社会人学生はとて研究熱心で、一般学生によい刺激を与えています。本研究科では、こうした社会人学生の便宜のため、昼夜開講制を実施し、月曜日～金曜日の6校時(17時30分～19時00分)が夜間授業時間、土曜日の3校時から6校時(12時40分～19時00分)が昼夜共通授業時間にあてられています。

### 経済学研究科

#### ある「生涯学習」のかたち

本研究科が社会人入学を採用して2年目です。現在、注目のご夫婦の院生がいます。NHKでは、平成11年12月10日午後5時5分からの「ゆうYou東北-いまどき情報-」で、「夫婦で学ぶ大学院-2度目の大学生活-」と題し、その1日を放映しました。秋葉美智子さん、俊郎さんのお二人は、昭和55年3月、本学経済学部を卒業した同級生です。卒業後結婚し、美智子さんは専業主婦、俊郎さんは会計事務所長、4歳と2歳のお子さんがいます。美智子さんは、最初の社会人選考に合格、越智洋三教授のもとで財政学を専攻しています。妻の勉強している姿を見て、俊郎さんは1年後輩になる道を選びました。美智子さんは修士論文『女性と税制』の仕上げ段階にあり、俊郎さんは現在テーマを選定中です。生涯学習が進めば、こうした形も多くなるのではないのでしょうか。

### 工学研究科

#### 確かな歩みの中で

平成11年9月から7ヶ月間の予定でポーランドのロツ工科大学のポーダン・クロジンスキー博士が大学院の客員教授として来学され、機械加工学及び機械要素学の講義を担当しています。講義は分かりやすい英語で話され、学生たちの評判も上々です。先生はカトリック教徒で、永い冬の時代だったポーランドにもキリスト教主義の学校がやっと復活し始め、21世紀に夢をいだけるようになったと語っていました。

大学院生の就職状況は順調で、ほとんど進路が決定しています。院生たちは現在、論文の最後の仕上げに全力投球というところですよ。2月には研究科の各専攻で、学位論文審査の口頭試問があり、3月にはいよいよ37名の修士(工学)と5名の博士(工学)(内、2名は社会人論文博士)が誕生する予定です。

### 人間情報学研究科

#### 3つのコア ー行動・社会・生命ー

本研究科は一専攻で設立されましたが、現在基礎領域を共通に、行動系コア、社会系コア、生命系コアに分かれて活動をしています。院生には、一般院生と社会人院生がおり、同じように講義や演習に参加をし実験や調査研究を行い、文献などの指導を受けながら論文をまとめています。

具体的にどのような主題で研究を行っているのか、提出された博士課程前期の論文主題の例を紹介します。行動系では「リハビリテーション過程における障害認知の変容について」、「補完的知覚情報に関する研究」、「教師のキャリア発達における教師の意欲の構造と展開」、「看護者のパ・ンアウト要因とキャリア発達に関する研究」、社会系では「在宅介護高齢者の自立支援に関

する研究」、「若者と移動体通信に関する研究」、「Emily Bronte『嵐が丘』に関する研究」、「若者文化における流行の受容に関する研究」、生命系では「身体移動に関する脳の情報処理機構のPETによる画像解析」、「Hodgkin-Huxleyの数値解析と視覚化の試み」、「細胞内記録による神経インパルスの解析」、「断眠状態における身体のバランス保持機能」などがあります。

社会人院生には、他大学の教員、教育職、看護職、公務員など多様な職種の人々が在籍し、基礎的研究はもちろんのことそれぞれの職種にとっても意義のある研究主題が選択されています。指導する教員も社会との垣根を取り払った新しい時代の大学院を目指し、院生と共に新しい課題に大きなエネルギーを傾けて取り組んでいます。



### 文学部

## 文学部の強み

「女子大学生の文学部離れ」がジャーナリストの関心事となっています。先日の『河北新報』夕刊では特集を組んでいました。最近の実学志向の若者の現代的関心との関連性をみてのことです。そのインタビューを受けました。新聞記者は情報、福祉、介護などの学部・学科が21世紀の人気を独占するのではと推測しているようです。

情報、福祉、介護は重要です。それゆえ、最近の県立大学と国・私立大学の増設学部・学科の多くがその領域の知識と技術の習得を目指すのは意義があります。それらの学部・学科を大いに立ち上げる必要はあります。しかし、それが「大学教育」の全てではないことを知るべきでもあります。

「すぐ役立つ知識は、すぐ役立たなくなる」のが、近・現代の著しい科学の進展の結果です。「社会の要請に応える」ことは、「使い捨てになる人材」を社会の第一線に送り出すことではありません。社会の変化、経済の行方、国際社会の動向、「時

代精神の曖昧さ」などに敏感に反応でき、批判的に関わり、正しい分析をなし、総合的判断を下し、しかも失敗を恐れず実行に移す勇気を持った人材を新しい世紀は必要としています。言い換えれば、柔軟な思考の訓練を受けた人材を社会は求めているのです。

語学力と言葉の背後の文化と各民族・国家の歴史と宗教などを学ぶことは、異文化理解に不可欠です。国際化の時代であればあるほどそうです。本学の文学部の強みは、それらを研究・教育する英文・基督教・史学の3学科を揃えていることです。



### 経済学部

## 公開講義とオープン・カレッジを終えて

経済学部では、これまでも学外に門戸を広く開放し、一般市民の高まりつつある生涯学習へのニーズにこたえるとともに、学生と一般市民の交流の場をもてるような機会を提供してきました。今年度は、9月に開始された平成11年度の「第6回経済学部公開講義(テーマ:日本版ビック・バン - 金融システムの変化と個人に与える影響)」および「第20回オープン・カレッジ(テーマ:生活保障システムの新しい動向をめぐって)」を、12月に無事終了しました。

受講者の延べ総数は、公開講義6週間で829名、オープン・カレッジ10週間で910名と大盛況でした。いずれも今日の社会不安・生活不安の原因となっている問題をテーマとしていたこともあって、大きな関心が寄せられました。

年齢別に見ると、公開講義、オープン・カレッジのいずれについても、50歳以上の出席者が圧倒的に多く(公開講義49%、オープン・カレッジ53%)、あらためて生涯学習へのニーズの高まりを認識しました。公開講義には、七十七銀行代表取締役会長・仙台商工会議所会頭で、本学後援会会長の村松巖氏が、熱心に聴講されている姿もありました。

公開講義に参加された多くの方から、詳細なご好意あふれるご意見とご感想を述べられた手紙が寄せられましたが、主催者側として大変勇気づけられる思いでした。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 進化するカリキュラム —コース制の導入—

平成12年度からの法学部新カリキュラムでは、コース制がスタートします。政府と市民の関係や政府機関内部の問題を中心に学ぶ政策行政コース、主として市民間の関係を扱う法と経済活動に関する法について学ぶ企業法務コース、司法試験をはじめとする各種国家資格試験に必要な科目を中心に学ぶ司法コース、外国の法や政治、国家間および国家を超えた法的政治的関係を中心として学ぶ国際法務コース、バラエティに富んだ法学部の科目を総合的に学ぶ総合法務コース、という5つのコースからなり、学ぶ人の興味関心や進路志望にしたがって、3年進級次に選択するものです。コース制を採用すればすべてがバラ色、というわけではありませんが、入学した人たちにある程度の勉学目標をもってもらい、受験生には法学部で学ぶことについての明確なイメージ（「社会に出てから必ず役に立つ！」）をもってもらうために、特徴のあるコース制を考えました。



## 豊かな工学部リズム

大学生活にも季節的なリズムがあります。秋は恒例の工学部祭を実施しました。これは工学部と地域住民との交流を深めることをめざし、全教職員や研究室の協力のもと、昭和41年から続けられています。学生達は興味深い実験を行ったり、高価な機器や施設を紹介するための準備や説明を行いました。もちろん、楽しみと憩いの場として、種々の催しやアトラクションも準備しました。天候にも恵まれ、見学に訪れた大勢の家族連れや内外の学生達、さらには遠来の卒業生達も参加し、多賀城キャンパスは熱気に包まれました。夕べの空を彩る花火の打ち上げも行事に花を添えました。工学部祭が終わると、研究室公開を手伝っていた4年生は、本格的に卒業研究にとりかかります。この報告をご覧になる頃には彼らは卒業論文を仕上げ、新しい社会に巣立つ準備に心を弾ませていることでしょう。

工学部には教員と学生を会員とする東北学院大学工学会があります。工学会は講演会や見学会を開催したり、工学部の研究成果やアクティビティを発信するための機関誌として「工学部研究報告」の発行を行っています。現在、第34巻・2号の発刊を準備しています。また、本年度後期に開催した講演会の主なものについて紹介しますと、11月24日には「ごみ焼却におけるダイオキシン発生と制御技術」、12月2日には「多賀城市における低周波環境磁界の測定と磁気環境の制御技術」と「環境振動の特性・予測・制御技術」の2件、そして年明けの1月14日には「数学者の見た環境問題、防災問題」という演題で各界の著名者に講演をしていただきました。これは、工学部が重要視している環境工学が、いかに広い範囲に関わっているかを知っていただけたと思います。



## 英文学科は 出版ラッシュ

ここ数年、英文学科教員の出版活動が活況を呈していますが、昨年下半年だけで四点が集中的に出版され、注目を浴びています。志子田光雄教授が『イギリスの大聖堂』（晶文社）を7月に出版、英国版古寺巡礼として各紙・誌の書評できわめて好意的に取り上げられました。11月には、ノーム・チョムスキー著『言語と思考』（松柏社叢書言語科学の冒険3）を大石正幸教授が翻訳出版しました。言語哲学界に一大衝撃を与えたシンポジウムの全記録で、20世紀言語学の巨人チョムスキーの言語哲学の全容を伝えています。大石教授は、チョムスキーの近年の主要著書を一手に引き受けて翻訳・紹介にあっています。次いで、クリスティン・ヒューズ著『十九世紀イギリスの日常生活』（松柏社）を植松靖夫助教授が翻訳出版しました。植松助教授は、かねて英国ヴィクトリア朝期の庶民の生活史の諸研究を紹介してきましたが、その仕事にさらに貴重な一書を加えることになりました。12月になって『英語教育用語辞典』（大修館書店）を村野井仁助教授が四人の編著者の一人として出版しました。最新の英語教育学・言語習得理論の知見に基づく好著で、英語教育界に裨益するところ大でしょう。今春にも、さらに英文学科教員の出版は続きます。



## 人間科学専攻からの発信『ひゅうまん』

教養学部全体の性格や3つの専攻の教育内容については、すでに種々の機会に説明されていますので、今回は、人間科学専攻内の情報誌『ひゅうまん』について紹介します。

『ひゅうまん』は、教養学部の、とりわけ人間科学専攻の特徴を象徴的に表しているユニークなミニ・コミ誌です。「コミュニケーション」は、現代の人間の問題を解くキーワードであり、さまざまな次元で人間科学専攻の教育・研究のかかわるテーマでもあります。

『ひゅうまん』は、そうした人間科学専攻の学生と学生、学生と教員間のコミュニケーションを活性化して、専攻の個々の成員を相互に結びつける紐帯の役割を果たしてきました。しかも、その運営・編集のほとんどすべてが学生有志(30名前後)からなる編集委員会によって自主的になされています。現代の「教養」は、かつてのそれと違って単に受け身のものではなく、より積極的に自ら行動する中から身につけていくべきものであることを思えば、それ自体学生たち自身のすぐれた訓練の場とも言えます。無論、コミュニケーション問題について専門的知見を有する専攻所属の教員の適切な指導を仰ぐことができるのも、彼らにとって幸せなことに違いありません。

『ひゅうまん』は、1990年学部発足の翌年早くも創刊号がだされ、以後原則として春・秋の年2回400部程度印刷発行し、人間科学専攻の全学生・教員と図書館など学内機関に配布しています。内容は、春号では、「新入生歓迎特集」として、「私の時間割」(2,3年生の時間割の実例紹介)、「キャンパス・スポット」(学内の施設紹介)、「ひゅうまん・うおっちゃんぐ」(教員へのインタビュー-)などを掲載し、新入生のオリエンテーションにも利用されています。また秋号には、「研究の一と」(実験・調査実習、ゼミ活動の成果報告)、読書・ビデオ案内などを載せ、専攻内外のホットな情報源として機能してきました。今後人間科学を象徴する学生の活動としてその存在を示していくことでしょう。



## 環境問題に 取り組んでいます



各キャンパスに集う多数の学生や教職員が出すごみは、非常に多い量となります。本学では、ごみの排出削減に取り組んでいるほか、燃えるごみ、燃えないごみ、再生資源となるごみの分別収集を徹底しています。また、環境保全上重要な問題でもある喫煙についても、各キャンパスの分煙を実施し、喫煙者のマナー向上に努めています。今後も一人ひとりがキャンパスのより良い環境保持者となるよう、環境対策に取り組んでいきます。



# キリスト教大学の使命—その具現化—

## 「場」の創成



大学時代は、モラトリアム(執行猶予)の期間だといわれています。社会に出て働くことを猶予され、備えの時として与えられた期間のことです。この猶予された期間に、学生たちは何を備えればよいのか。社会の中で果たすべき役割を見出し、自立した人間として近い将来に託される使命に応えるため、何を備えればよいのか。これは、学生だけでなく、大学に問われている課題でもあります。

課題は二つです。一つは、専門の知識や技術を身につけ、社会の要請に応え得る学びをすること。もう一つは、獲得した知識や技術を人類の平和と繁栄のために正しく用いる人間性を育成すること。東北学院大学は、これら二つの大きな課題に対しキリスト教大学として応えようとしています。即ち、高等教育機関にふさわしい研究と教育による専門的知識や技術を学ぶ機会を提供し、

かつ、キリスト教の価値観を根本理念とした優れた教養や人格や人間性を涵養する場を提供しようとしています。前者に関しては、本誌の大学院や学部や研究所の欄において紹介されていますので、本欄では、もっぱら後者に関して紹介します。

最初に触れなければならないことは、文字通り「場」の創成ということです。大学の中身にふさわしい器を備えること、換言するならば、大学の標榜する理念にふさわしい建物やキャンパスを備えることです。



学生たちが青春時代を過ごす空間であるキャンパスに、大学の理念が具現化されているか。例えば、東北学院大学土樋キャンパスの正門に立ってみます。正門に東北学院の歴史を象徴する大学本館、右手にカレッジゴシック様式の荘厳なラーハウザー記念東北学院礼拝堂、左手にかつての東北学院図書館、現在大学院棟として使われている建物があります。本館は教室として使わ

れていたのも、研究、信仰、教育の三つがキャンパスの構図として具現化されています。それは、他のキャンパスにおいても然りです。多賀城キャンパスの小高い丘に礼拝堂が威風堂々と建っており、シンボリック的存在になっています。隣には、図書館と体育館が建てられています。また、泉キャンパスの正門に入り、並木の坂を上って行くと、最初に目に入るのが、壮大な礼拝堂です。

クリスマスの季節には、イルミネーションが輝きます。強調しなければならないことは、これらの建物が今日においてもなお活きていることです。毎日、10時から10時半まで、大学礼拝が行われています。公の時間に、聖書の言葉が語られるキャンパスなのです。昨年は延べ12万人の学生が礼拝に参加しました。特別の行事もあります。例えば、特別伝道礼拝、大学クリスマス礼拝、泉キャンパス公開クリスマス、東北学院公開クリスマス、また宗教音楽の夕べやパイプオルガン演奏会です。

大学のキャンパスは、大学の理念が現れる場です。大学が、価値を見出した理念にふさわしく本気で歩むとき、そのキャンパスで学ぶ学生たちは、このうえなく充実した、そして、有意義なモラトリアム時代を過ごすことができます。

## COLUMN WELL



### 仙台海底遺跡の発見

仙台の海岸地方に、平安時代の貞観の大地震と津波の言い伝えや逸話が残っております。河野幸夫工学部教授はこれらの言い伝えや逸話を検討し、平安時代の正史である三代実録の文献調査にもとづき、海底潜水調査を実施しました。そして昨年、約千百年前に海底に沈んだ

伝説の島を発見しました。写真は伝説にある大根大明神を祭ったと思われる大きな祠と御神体と思われる石の一つです。別府湾の瓜生島など海底に沈んだ島の伝説は各地にあります。実際に発見されたのは日本で初めてのことで、NHKなどでも取り上げられました。

## ヴィースバーデン大学(ドイツ)との交流

本学とヴィースバーデン大学とは、1997年4月に「学生交換に関する協定」に仮調印し、早速交換留学生の受け入れ・派遣を開始しました。ヴィースバーデン大学の学生は1991年度より開講している日本研究秋期講座で、アメリカの2大学からの交換留学生とともに学んでおり、現在まで3名の学生を受け入れました。また本学の学生は、毎年1名ずつ計3名がヴィースバーデン大学で学んでいます。ヴィースバーデン大学ではドイツ語で受講できるほかに、経済学関係の科目を英語で受講することができ



るので、ドイツ語に自信がない学生でも、TOEFLが500点以上であれば出願できます。協定の試行期間が2000年3月までとなっていることから、協定の見直しを行い、昨年7月に本学学長が世界学長会議に出席の際、ヴィースバーデン大学を訪問し正式調印を行いました。

## ヴィースバーデン大学 クレメンス・クロックナー学長からのメッセージ

For quite a number of years now, we at the University of Applied Sciences of Wiesbaden have endeavored to extend our international relations. The time, when we limited ourselves to partners in the European environment has long passed. One milestone in the enhancement of our scientific cooperations with foreign countries outside Europe was, a few years ago already, the conclusion of an institutional student exchange agreement with the Tohoku Gakuin University. This

agreement was renewed last year. It was a great honor to us, to have the President, Prof. Dr. Kuramatsu, as a guest with us on that occasion. His visit fostered our mutual confidence in the quality of study courses and paved the way for a permanent promotion of international understanding and educational opportunities for our students. This fact fills me, in my function as President of the University of Applied Science of Wiesbaden, with great satisfaction and a high degree of optimism. We will strive with all our might, to fill this valuable partnership with life in future too, and we invite all members of the Tohoku Gakuin University to avail themselves of the opportunities for dialogue and scientific exchange with us.

私たちヴィースバーデン大学は、長い間、国際交流関係の拡大に努力してきましたが、交流先をヨーロッパ周辺諸国に限定していた時代が長く続きました。そして、ヨーロッパ以外の諸外国との学術協力を促進するための画期的な出来事が、すでに数年前となりましたが、東北学院大学との学生交換に関する協定の締結でした。この協定は昨年更新されましたが、その際、倉松学長を来賓としてお迎えできましたことは、私たちにとって大変光栄なことでした。この訪問によって、私たちは、教育の質において互いに自信を深め合うことができ、我々の学生のために国際理解と教育機会の促進を永続的にはかる道を開くことができたのではないかと思います。私は、ヴィースバーデン大学の学長として、この事実に大きな満足と明るい見通しを持っております。

私たちは、この貴重な交流関係を将来とも生き生きとして継続するために最善の努力をするとともに、東北学院大学の方々が、私たちとの対話と学術交流の機会としては是非来学させることを願っております。

## COLUMN WELL

## 法学政治学研究所主催『学術講演会』

本研究所は、平成4年4月の設置以来、法学政治学の組織的研究を中心に活動をしています。最も特徴のあるものの一つが、一般市民にも開放されている『学術講演会』です。毎回法学政治学の分野で著名な研究者を招き、現代問題に関するテーマでご講演いただいています。平成12年度は、5月の最終木曜日に土樋キャンパス90周年記念館大ホールを会場に、元朝日新聞編集委員・新潟国際情報大学情報文化学部長の石川真澄教授に「現代の日本の政治」という題で講演をお願いすることになっています。

### 国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College フランクリン・マーシャル大学(アメリカ)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)  
Pyongtaek University 平澤大学校(韓国)  
Nankai University 南開大学(中国)  
University of Durham ダラム大学(イギリス)  
University of Ulster アルスター大学(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局

022-264-6425/6404

E-mail: "IC0@tsc. tohoku-gakuin. ac. jp"



## 図書館より *Library Info.*

主を畏れることは、知恵の初め

### カント『道徳の形而上学』初版 全二巻(1797年)



カントの晩年の集大成、『道徳の形而上学』の初版本が本学図書館に所蔵されています。この書は第一部『法論の形而上学的原理』と、第二部『徳論の形而上学的原理』に分かれています。前者は法哲学、後者は倫理学を内容とするものです。第一部は1797年1月の出版です。続いて第二部は同年8月末の出版と推定されています(いずれもケーニヒスベルク刊)。つまり、第一部と第二部とは、もともと別々に出版された二冊の単行本だったのです。しかし早くも同年中に両書の合本版が出版され、これがいわゆる『道徳の形而上学』と題されて、今日にいたっています。本学所蔵の版は、単行本としての二冊の本の初版であり、合本版ではないため、文字通り真正正銘の初版ということになります。いずれか一方だけの初版、あるいは合本版の初版は、時に古書のカatalogで見かける機会がありますが、単独刊行版の初版が二冊そろっている例は極めて珍しいといえます。

本学所蔵の版は、二冊とも仮とじのままです。また袋とじのページにはいまだペーパーナイフが入った形跡もありません。つまり、出版以来およそ二世紀の間、だれによっても書物として扱われたことのない書物なのです。書物としては、まことに不幸な運命をたどってきたというほかありません。それだけに、縁あって本学図書館に廻ってきたからには、ここがこの書の不幸な運命にピリオドを打つ最適所となることを願いたいものです。

問い合わせ先 図書館事務室  
022-264-6491

## COLUMN WELL

### 研究紹介

#### 法学部長 阿部 純二

私の専門は刑法です。刑法学者は何を研究しているのか。答えるのが難しい質問です。刑法全般を研究しているという他ないのですが、私の場合は、初めは総論、特に違法性論、その中でも義務の衝突や緊急避難などの問題を研究しました。

共犯や量刑論についても論文を書いております。十分なものではありませんが、総論の体系書「刑法総論」1997を書いた後は、興味は各論へとシフトし、今は各論の諸領域、特に経済刑法を中心に研究しています。

## 研究所より *Institute for Research Info.*

豊かな地域社会の創造を目指して

### キリスト教文化研究所

本研究所は、「キリスト教研究所」として1957年に設置されましたが、今年度より「キリスト教文化研究所」と改称しました。主な活動は、キリスト教文化の研究・指導・調査、キリスト教文化に関する文献と資料の収集、定期刊行物『キリスト教文化研究所紀要』の発行、研究会・学術講演会・公開講座の開催などです。

学術講演会：37年間にわたり実施しており、今年度は第41回で、11月19日に開催しました。演題は「宗教改革時代の諸論争 - ルターを中心にして -」で、講師は本学の倉松功学長が務めました。

公開講座「キリスト教文化講座」：毎年10月に5回実施しています。今年で18回目を迎え、「聖書の奇跡と地中海世界 - 初期キリスト教の歴史における福音書記者たちのイエス理解 - (土戸清)」「回想と黙想 - アーミッシュ村の『簡素・純朴』の源流を探る - (西山良雄)」「『教会』と諸国家 - ヨーロッパの理解をめぐって - (佐藤伊久男)」「バルメン宣言の教会論 - 第三項、第五項のテキストを読む - (佐藤司郎)」「生命倫理の諸問題 - キリスト教の視点から - (西谷幸介)」というテーマと講師陣で行いました。



問い合わせ先 キリスト教文化研究所  
022-264-6401

### 社会福祉研究所

本研究所は、社会福祉について調査・研究し、社会福祉の発展と本学における社会福祉に関する研究教育の充実をはかるため、1976年12月に設置されました。主な事業は、社会福祉の実態に関する調査・研究、『社会福祉研究叢書』と『オープンカレッジ(福祉社会論 講義報告集)』の発刊、文献・資料の収集及び研究会・公開講座の開催等があります。

公開講座『オープンカレッジ(福祉社会論)』は、心豊かに生活できる社会条件をつくる一助として、一般市民の方々を対象に、毎年学内外から講師をお招きし講義を展開しており、昭和55年度のスタートから20年目をむかえました。



今年度は、「生活保障システムの新しい動向をめぐって」と題し、平成11年9月30日～12月2日の期間中、毎週木曜日の夜、介護保険や年金に関する講義など全10講義を開催しました。

問い合わせ先 社会福祉研究所  
022-264-6362



## 就職部より

Placement Info.

### 就職支援体制の強化

真新しいリクルートスーツ姿の学生が目立つシーズンになりました。3年生の就職戦線も、いよいよ本番を迎えています。長引く「平成不況」の中、就職協定廃止4年目に入り、企業の採用活動も一段と自由化がすすみ、「早期化」「長期化」さらには「多様化」と、環境が大きく変化しています。特に、採用面ではインターネット採用、エントリーシート選考、職種別採用など、企業独自の計画の中で、より目的意識の高い人材を求める傾向にあります。

就職部では、10月の第1回就職説明会を皮切りに、本格的な就職支援体制に入りました。就職情報セミナー(10回)、先輩体験談、公務員講座、業界・企業研究講座など、就職活動において重要な行事を企画しています。平成12年度の採用活動は、春休みの2月頃から始まり、4月と5月が第一のピークになると予想されます。就職活動では、どんなにハードルが高くなるうとも、目標に向かって果敢に挑戦する姿勢が何よりも大事であることを強調しています。

問い合わせ先 就職部就職課  
022-264-6484



## 入試センターより

Admissions Info.

### 一般入試(前期日程)の志願状況

平成12年度入学者選抜のための一般入試(前期日程)が、2月1日から4日まで仙台、多賀城の本学キャンパスのほか全国7ヶ所(札幌・青森・盛岡・秋田・山形・郡山・東京)の試験場で行われました。

志願者は、全体で10,290名、倍率は8.5倍でした。A0入試や前期・後期に分けた入試を実施した結果、昨年の倍率6.5倍より上昇しました。各学部の倍率は、文学部8.3倍、経済学部8.6倍、法学部8.3倍、工学部6.7倍、教養学部12.1倍でした。

志願者の地域として、東北地方、特に、宮城県の志願者数が多いのですが、遠くは鹿児島県など46都道府県より志願が寄せられ、全国的広がりを見せました。3月9日には、後期日程試験が行われます。

問い合わせ先 入試センター事務室  
022-264-6455

### 東北学院大学

#### 土樋キャンパス

大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
学部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、  
文学部二部、経済学部二部  
〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
022-264-6421 \* 022-264-3030

#### 多賀城キャンパス

大学院：工学研究科  
学部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
022-368-1116 \* 022-368-7070

#### 泉キャンパス

大学院：人間情報学研究科  
学部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)  
教養学部  
〒981-3193 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
022-375-1121 \* 022-375-4040

### 東北学院中学・高等学校

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町丁目9番1号  
022-227-1221(代) \* 022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 宮城県仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
022-372-6611(代) \* 022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
022-368-8600(代) \* 022-309-2655



- ウーラノス -

東北学院大学 広報誌 Vol.3

東北学院大学設置50周年記念事業  
大学広報誌発行小委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	伊藤 仁信
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	飯土井公洋
	総務部総務課係長	桔梗 元子
	総務部総務課	伊藤 寿隆
	総務部総務課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌『**OPANOS**』(ウーラノス)に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成12(2000)年2月20日  
編集 東北学院大学  
設置50周年記念事業  
大学広報誌発行小委員会  
発行 東北学院大学  
設置50周年記念事業  
実施委員会

〒980-8511  
宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL 022-264-6421 FAX 022-264-3030  
<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>

印刷 (株)エイエイピー